

外国につながる子どもと家族の支援 研修カリキュラム提案書

2020年度および2021年度にオンラインセミナーを開催する中で、外国につながる子どもや家族に関わる支援者が、包括的な知識や情報がないまま、目の前にある課題に対応せざるを得ない状況にあることが明らかとなった。移住者が抱える困難は、国境を越えた移動によって生じる特殊な課題（在留資格、言語、文化に起因するもの）だけでなく、普遍的に誰もが直面しうる生活課題（妊娠・出産、経済的困窮、家庭内不和など）として表面化することも多い。それらの課題に対しては、地域の関係機関で日本人と同じサービス（窓口）を利用することになるが、相談を受ける側にとっては普遍的課題の後ろに隠された移住者特有の課題を読み取ることが難しいという状況がある。ISSJでは、「日本人のため」に設計された制度の中に設置された一般的な窓口で、課題解消につながる相談ができないという現状にも、事業実施（ソーシャルワーク）を通して直面してきた。

支援の向上と課題解決のためには、地域の生活者としての移住者（外国につながる子どもや家族）に関わる可能性のある人が、まずは必要最低限の知識や視点を身につけ、移住者の相談にも対応できるようになることが望ましい。全ての人々が専門的な相談を受けられるようになるのではなく、相談のたらい回しが生じず、適切な情報や資源に繋いでいかれるようになることが、移住者支援全体の底上げにつながる。

このような視点から、下記の通り、全10回で外国につながる家族や子どもの支援の基礎を網羅的に学べるコースカリキュラム例を提案する。各回の内容は、それぞれのテーマに関する理論的な側面を学びつつ、事例紹介やグループワーク等を組み合わせ、実務に役立つ情報も提供ことを目的とした。それにより、支援に携わったことがない人でも具体的なイメージを持ち、心構えができるようになり、既に支援に関わっている人は断片的な情報を統合し、より良い支援に繋げられるようになることを目指す。

外国につながる家族と子どものソーシャルワーク（全10回）

テーマ	内容
1. 外国につながる家族を捉える視点 移住・強制移住を理解する	<p>移動に伴う変化を学ぶ</p> <p>「家族」というユニットを捉える視点を学ぶ。</p> <p>定住の課題を学ぶ</p> <p>単身者、夫婦、家族、母子など、さまざまな形態の家族の背景を理解し、アセスメントするスキルを身につける。</p>
2. 在留資格と社会資源、国籍	<p>在留資格の基礎的な知識を身につけ、それに連動する社会資源について学ぶ。</p> <p>相談者の在留資格を把握することは、支援の大前提であることを認識する。</p>
3. 定住者の日本語教育と就労	<p>各世代、ライフステージにおける日本語教育ニーズを知る。</p> <p>移住後の就労の傾向、課題、留意点について学ぶ。</p>
4. 子どもの教育と進路選択	<p>外国につながる子どもの教育に関する課題が生じる背景と、その多様さについて知る。</p> <p>来日時期や在留資格によって異なる進路選択の在り方を考える。</p>
5. 多言語・多文化環境の子どもの発達と子育て観	<p>複数の言語と文化がある環境で育つ子どもの発達について学び、子どもと家族とのかかわり方を考える。</p> <p>言語化されない子育てに関する文化の違いを理解する。</p>
6. 外国につながる母子の支援	<p>外国につながる女性の脆弱性、ジェンダーロールの変化と適応について学ぶ。</p> <p>文化的背景等によって異なる対応を視野に入れる必要があることを知る。</p>
7. 社会資源としての移住者コミュニティ	<p>各地に存在する移住者コミュニティの存在と、移住者にとってのコミュニティの存在意義を知る。</p> <p>移住者コミュニティと地域社会との繋がりについて考える。</p>
8. 移住者のメンタルヘルス	<p>移動に伴うストレスや社会適応の過程で抱えやすいストレスについて知り、その対応を考える。</p>
9. 複数の文化で生きるということ	<p>異なる文化、価値、規範を有する移住者とのコミュニケーション、信頼関係の構築</p>
10. 事例検討会	<p>各テーマの事例検討（グループワーク）</p>